さかまた

2009.12
NO.74

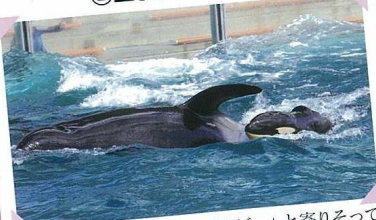
シャチ「アース」の一年

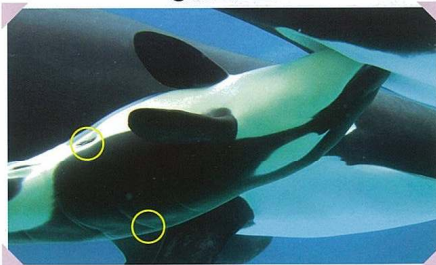
▲左から父親「オスカー」、「アース」（1歳）、母親「ラビー」

2009年10月13日、「ラビー」の子供で日本初のシャチの3世「アース」が満1歳になりました。「アース」誕生から満1歳までの1年を紹介します。これからも応援をお願いします。

①誕生（2008年10月13日）

「ラビー」の出産が始まりました。午前11時44分に無事出産し、日本初のシャチの3世が誕生しました。体長約2m、体重160～180kg。

②生まれて数分後

係員の心配をよそに母親「ラビー」と寄りそって泳ぎ始めました。

③誕生翌日

授乳も確認されました。赤ちゃんシャチは体の白い模様の部分がオレンジ色をしているのが大きな特徴です。お腹にはヘソの緒、体側にはシワ、そして口先にはヒゲがあります。

④生後2ヶ月

口先や胸ビレのつけ根から体の皮がむけ始めました。その後、少しずつ全身の皮がむけていきます。皮がむけるとオレンジ色の部分は少し淡い色になります。このころからエサの魚で遊ぶようになりました。

⑤生後3ヶ月

歯が生え始めました。水面に顔を出すことが多くなり、1頭で泳ぐ姿も見られるようになりました。

⑥生後4ヶ月

生え始めた歯は少しずつめだってきました。また、エサの魚で遊ぶことも多くなり、初めて食べているところが観察されました。

⑦生後5ヶ月（2009年3月7日）

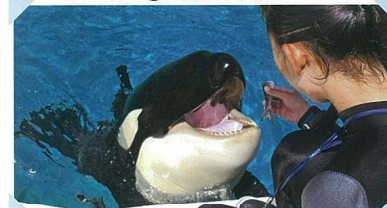
1万通あまりの一般公募の中から、愛称が「アース（Earth）」に決まりました。体長2.3m、体重約250kg。

⑧生後6～7ヶ月

歯がほとんど生えそろい、食べるエサの魚の量も増えてきました。また、ガラス面のお客様に近づいたり、1頭でジャンプしたりとやんちゃぶりを発揮し始めました。体長2.5m、体重約310kg。

⑨生後8～9ヶ月

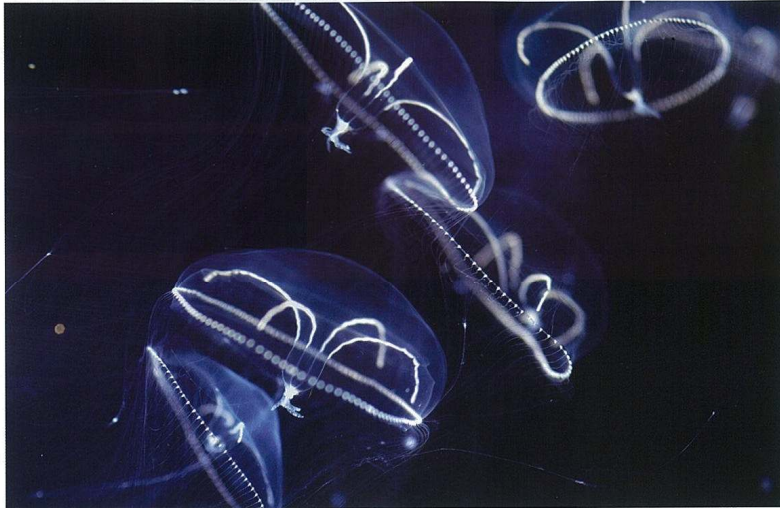
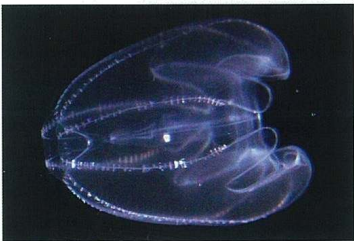
パフォーマンス中に「ラビー」や「ララ」のそばで尾ビレを上げたり、水中のトレーナーに近づいたり、1頭でガラス面に近づくたびに大きな歓声があがりました。

⑩生後10ヶ月

1日のエサの量を決め、トレーナーからの給餌を始めました。大きく口を開いてエサをねだる行動も多くなり、水面に顔を出す動作も安定してきました。

⑪生後1年

満1歳を迎え体長2.7m、体重約380kgになり、パフォーマンス中も一段と活発な動きを見せてくれるようになりました。トレーニングはすでに始めており、今では心拍数や体温の測定、体長の測定ができるようになりました。

（金野　征記）

「海の宝石 -クラゲ-」開催中

▲コブエイレネクラゲ（カサ径 3cm）

▲カブトクラゲ（体高 10cm）

▲アマクサクラゲ（カサ径 10cm）

7月からエコ・アクアロームでクラゲ類の展示を始めました。時に大発生したり、海水浴場で刺されたりすることで嫌われがちなクラゲですが、透明で繊細な体をフワリフワリと動かす姿は人をひきつける魅力があります。

展示しているクラゲはミズクラゲ、タコクラゲ、サカサクラゲなど7種類です。これらのクラゲは、港の中や沖合いで採集したり、水族館の裏方でポリプを育て、そこから増えた小さなクラゲたちをさらに大きく育てて展示しています。中には水族館の水槽でポリプが発見され、自然界ではまだ見つかっていないコブエイレネクラゲのような不思議な種類も展示しています。クラゲの体はとてもデリケートで泳ぐ力も弱いため、網ですくったり、強い水流にあたっただけでこわれてしまいます。飼育する水槽には工夫が必要で気をつかいますが、これからも季節によって沿岸に姿をあらわすクラゲたちなどを紹介し、展示を充実させていきたいと考えています。

種類によって体の色やカサの動かし方にも特徴があり、思わず見入ってしまうお客様もいらっしゃるようです。クラゲコーナーでお気に入りのクラゲを探してみてはいかがでしょうか？

▲お気に入りのクラゲは見つかったかな？

▲裏方の水槽でクラゲ培養中

（小川　泰史）

初体験!! カマイルカの輸送

▲シーワールドに到着　トラックのウイングを開け「お疲れさまー」

▲コンテナ内のイルカにひしゃくで水をかける

▲一頭ずつ身体検査を行う

6月12日にオスのカマイルカ3頭が兵庫県の城崎マリンワールドから仲間入りしました。イルカの長距離輸送は10年ぶりで、今回の輸送隊6人のうち私を含めた4人は初めての体験でした。輸送前には収容するタンカやコンテナ、必要な機材、処置薬品の準備をして、イルカとのトラックの旅という未知の旅を何度もシミュレーションしました。

輸送は夜通し約13時間のほとんどノンストップで行われました。1頭につき1人がつきっきりで世話を行い、特に皮膚が乾燥してしまわないように水をかけ、細かい変化を見落とさないように気をつかいました。しかし、明け方になると睡魔との闘いもありました。輸送中に1頭の呼吸が速くなっていましたが、先輩に対応の方法を教わりながら何とか無事に鴨川に到着することができました。

到着すると、呼吸が速くなった個体を落水したプールに一番に入れました。次の1頭は、新しい環境に驚いたのかプールの壁に直進してぶつかりそうになりました。そこで、係員がサポートしたところ、少しずつ落ちついて泳ぎ始めました。輸送中はもちろんのこと輸送後も気が抜けない大仕事であると実感しました。この3頭は今ではバンドウイルカや古株のカマイルカとも元気に泳いでいます。サーフスタジアムにお越しの際は、カマイルカたちをどうぞご覧ください。

▲水位を低くしたプールへ

▲水面から顔をあげる3頭

（野村　美佳）

モラモラ

新しくなった「ナイトアドベンチャー」

「ナイトアドベンチャー」は、1時間かけて夜の水族館を探検する夏休みのイベントで、平成9年のスタートから毎年1,000人以上の方に参加していただく人気プログラムの一つです。昼間とは違う夜の動物たちの行動を観察することができるのはもちろんですが、夜ならではの飼育の工夫を見たり、飼育係が水族館の中をご案内するガイドツアーの楽しみもあり、毎年のように参加していただいているリピーターの方も多くなっています。そこで今年の夏休みは、クイズ形式で進行したり、照明を使った演出やスライドを使った解説などをもりこみ、よりわかりやすい内容にリフレッシュしました。夜ならではの水族館探検で新たな発見をお楽しみ下さい。　（桐畑　哲雄）

ホームページが新しくなりました！

鴨川シーワールドのオフィシャルホームページ（HP）が8月4日にリニューアルされました。新しいHPでは以前よりユーザーの方よりご指摘のあった「わかりづらい」「画面が古くさい」などユーザビリティやデザイン性の改善と向上に加え、コンピュータグラフィックの動物やクイズ、「さかまた」をはじめ刊行物や掲示物のアーカイブのコンテンツを新たに盛り込み、より内容を充実することが実現しました。これからも施設インフォメーションからタイムリーな情報などサービス向上に努め、魅力ある内容をめざし、身近にシーワールドを感じていただけるよう情報を配信してまいりますのでご期待ください。　（荒木田　康）

「コーラルインフォメーション」一新

トロピカルアイランドの「コーラルインフォメーション」が新しくなりました。これまでは、スクリーンとコンピューターで世界のサンゴ礁の情報を紹介していましたが、7月より新たにタッチパネルシステムや大型液晶パネルを導入し、サンゴの特徴を写真やビデオを用いてよりわかりやすく紹介するものに一新しました。さらに、アカウミガメの誕生シーンなどの貴重なビデオをご覧いただける「ビデオアーカイブ」も加わり、よりお楽しみいただける内容になりました。

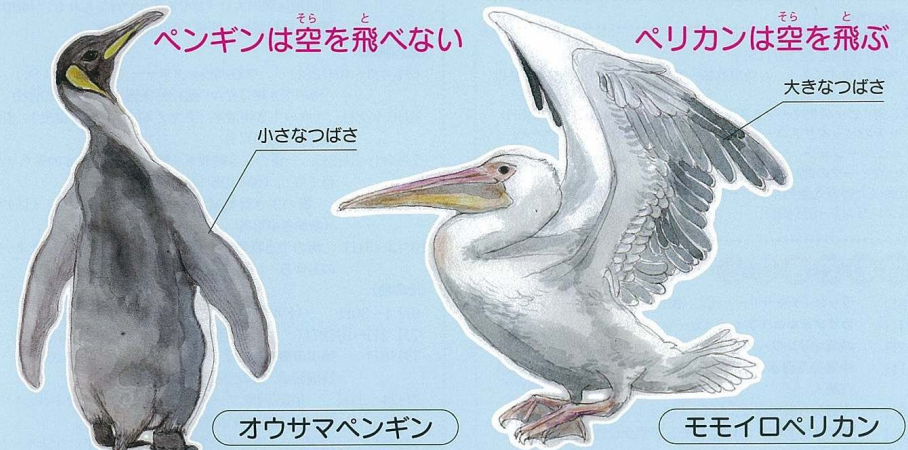
「コーラルインフォメーション」の更新にあわせ、ロッキーワールドの「海洋ステーション」も内容を変更しましたのであわせてご覧ください。　（中坪　俊之）

今年も海に旅立ったアカウミガメの子ども

鴨川シーワールド前の東条海岸には、毎年6月から8月にアカウミガメが産卵のため上陸します。そのうち、ふ化に適さない場所に産卵されたウミガメの卵は、ウミガメ類の展示施設「海亀の浜」に保護し、生まれた子ガメは人の手を介さず海に放流しています。今年も10回の産卵が確認されましたが、6例は波がかかる危険があるなどの理由から保護しました。今年の夏は初めのころ、涼しい日が続きふ化の遅れが心配されましたが、本格的な夏を迎え暑い日が続いた8月下旬から砂の中でふ化した子ガメが次々と外に出てきました。今年生まれたおよそ300匹の子ガメは、「海亀の浜」から海岸にのばした特設の橋を自力で渡った後、砂浜を歩き海へと旅立ちました。　（齋藤　純康）

親子でStudy

な・ぜ・な・ぜ・相・談・室

Q ペンギンとペリカンはどうちがうの？

Q どうやって水中の魚をつかまえるの？

表紙説明　シャチ　ララとアース（1歳）の水平ジャンプ